

A Study of Infant Care in General Remarks on Nursery Contents

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日光, 恵利, 榎田, 二三子 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/734

保育内容総論における乳児保育内容に関する一考察

A Study of Infant Care in General Remarks on Nursery Contents

日光恵利^{*}

NIKKO Eri[†]

榎田二三子

ENOKITA Fumiko

1. 問題と目的

2017年3月に新幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が告示され、現在は周知期間として様々な説明会や研修が行われている。中でも、保育所保育指針においては、これまで不十分とされてきた乳児保育、1歳以上3歳未満児の保育についてのねらいや内容が充実し、今回の改定の大切な趣旨となっている。

2008年の保育所保育指針改定を受け、2010年に発表された「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」（以下中間まとめと記載する）において、保育内容の全体的な構造や総体を理解した上で、養護と教育にかかる領域等について学ぶことが必要であるとし、それまでの「保育内容」が「保育内容総論」と「保育内容演習」に分けられた。保育内容総論の教授内容は以下の通り示されている。

〈科目名〉 保育内容総論（演習・1単位）
〈目標〉 1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。 3. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかわりについて学ぶ。 4. 子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。 5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。

^{*} 関西女子短期大学 [†] 武蔵野大学教育学部

〈内容〉

1. 保育の基本と保育内容
 - (1)保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
 - (2)保育の全体構造と保育内容
2. 保育内容の歴史的変遷
3. 保育内容と子どもの理解
 - (1)子どもの発達の特性と保育内容
 - (2)個と集団の発達と保育内容
 - (3)保育における観察
 - (4)保育における記録
4. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開
 - (1)養護と教育が一体的に展開する保育
 - (2)環境を通して行う保育
 - (3)遊びによる総合的な保育
 - (4)生活や発達の連続性に考慮した保育
 - (5)家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
5. 保育の多様な展開
 - (1)乳児保育
 - (2)長時間の保育
 - (3)特別な支援を必要とする子どもの保育
 - (4)多文化共生の保育

教授内容では、「乳児保育」を「保育の多様な展開」の一項目として位置付けている。それでは、改定の大きなポイントとなった「乳児保育」について、実際の授業で扱われる保育内容総論の教科書では、どのように明示されているのだろうか。保育内容総論に関する先行研究を散見するに、「保育内容総論」で使用される教科書について検討がなされているものは見られなかった。

そこで、本研究では「保育内容総論」の教科書において「乳児保育」がどのように明示されているかを整理し、保育内容総論で何を教授すべきか考察することを目的とする。

2. 方法

2-1. 研究対象

分析対象となる教科書は庭野（2011）を参考に、2008年の保育所保育指針の改定内容を反映し、2017年11月までに日本国内で出版され、タイトルに「保育内容総論」という言葉を含むものとした。教科書を検索する際には、NDL-OPACを利用し、検索用語を「保育内容総論」と入力した。検索の結果、合計34冊がヒットし、このうち同一編者による同一タイトルのものは最新版のみを対象とした。その結果、21冊の教科書を分析の対象とした。

表1 使用した教科書一覧

番号	発行年次	発行所	タイトル	編著者
1	2008	みらい	新・保育内容総論	太田悦生編
2	2008	保育出版社	おもしろく簡潔に学ぶ保育内容総論	岸井勇雄監修、上野恭裕編著
3	2009	建帛社	演習 保育内容総論	金澤妙子、佐伯一弥編著、阿部和子共著
4	2009	光生館	保育内容総論	小田豊、神長美津子、西村重稀編著
5	2009	北大路書房	保育内容総論：保育の内容・方法を知る	民秋言、狐塚和江、佐藤直之編著
6	2010	福村出版	保育実践を支える保育内容総論	生田貞子、水田聖一編著
7	2010	みらい	実践を創造する演習・保育内容総論	豊田和子
8	2010	萌文書林	新保育内容総論：保育の構造と実践の探究	阿部和子、前原寛、久富陽子著
9	2011	ミネルヴァ書房	保育内容総論	大豆生田啓友、渡辺英則、柴崎正行、増田まゆみ編
10	2011	全国社会福祉協議会	保育内容総論	全国社会福祉協議会
11	2012	一藝社	保育内容総論	林邦雄、谷田貝公昭監修、高橋弥生編著
12	2013	創成社	エピソードから楽しく学ぼう保育内容総論	福岡敦子、山本恵子編著、及川留美、善本眞弓、寒河江芳枝、伊藤玲奈著
13	2013	萌文書林	子どもの生活・環境・遊びに向き合う：演習保育内容総論	神田伸生編著、高橋貴志、請川滋大、早川悦子、由田新著
14	2013	あいり出版	保育内容総論：保育所・幼稚園の保育内容の総合的理解と実践の探究	三宅茂夫、中西利恵編著
15	2014	みらい	子どもと共に学び合う演習・保育内容総論	井上孝之、奥山優佳、山崎敦子編
16	2014	福村出版	子どもの心によりそう保育内容総論	鈴木昌世編
17	2014	萌文書林	演習保育内容総論：あなたならどうしますか？：保育事例満載！	酒井幸子、守巧編著、神長美津子、杉山裕子、松山洋平著
18	2015	中央法規出版	保育内容総論	石川昭義、松川恵子編集
19	2015	大阪図書出版	保育内容総論	横山文樹、駒井美智子編著
20	2016	建帛社	コンパス保育内容総論	咲間まり子
21	2017	一藝社	保育内容総論	大沢裕、高橋弥生編著

2-2. 分析の視点

本研究では、「保育内容総論」の教科書において「乳児保育」がどのように明示されているかを整理して分析するが、その際主に、①教科書の中で取り扱われている「乳児保育」に関する傾向、②カリキュラム内での「保育内容総論」の位置付けにおける教授内容について、③保育の多様な展開としての「乳児保育」について、以上の3点に着目して考察する。

3. 結果

3-1. 教科書の中で取り扱われている「乳児保育」の傾向

対象の教科書における乳児保育の取り扱いについて、乳児保育の教授内容に添って、「乳児保育の理念と役割」、「乳児保育の現状と課題」、「3歳未満児の発達と保育内容」、「乳児保育の実際」、「乳児保育における連携」の5つに分けて整理した。

その結果、ほとんどの教科書で、「3歳未満児の発達と保育内容」に関する内容が取り上げられ、「乳児保育における連携」について取り上げている教科書は1冊だけであった。この結果を踏まえ、教授内容ごとに整理して傾向を述べる。

表2 取り扱われている乳児保育の内容

番号	総ページ数	乳児保育に関するページ数	乳児保育の理念と役割	乳児保育の現状と課題	3歳未満児の発達と保育内容	乳児保育の実際	乳児保育における連携
1	215	17	p121		p52-64、p113-114	p28	
2	226	11		p41、p43-44	p46、p48、p50、p55、p60-62、p90		
3	143	9			p21-28、p30、p35-36、p116-118		
4	169	7	p145-146			p30、p123-124、p126-127	
5	192	11			p21、p25-26	p86、p90-91、p118、p124-127	
6	196	15			p64-66、p146-153	p116-119	
7	197	21	p22、p24	p178	p28-31、p58-71		
8	210	32			p67、p71-73	p33-39、p51-52、p98、p129-145、p158	
9	216	28		p17-29	p101-102、p104-106、p110-111、p117-118、p133-138		
10	241	18			p83-91、p184-192		
11	195	17			p55-56、p113-116、p122-132		
12	261	26	p42-44		p60-62、p73-74、p78-79、p157-172		
13	190	21	p94-96		p19-25、p96-104、p119-120		
14	109	4			p73-76		
15	215	34			p62、p64-65、p81-91、p93-103	p35-43	
16	218	27	p98-100、p153-155	p155-162	p60-65	p117-118	p162-166
17	197	15			p56-60、p69、p118-122、p126-127、p133-134		
18	206	14			p153-166		
19	126	10			p28-37		
20	133	16	p13、p57-60		p18-20、p23-24、p53-55	p29、p32-33	
21	146	9			p90-98		

3-1-1. 乳児保育の理念と役割

乳児保育の理念と役割に分類される、共通する教科書の内容には、保育所保育の特性である「養護と教育を一体的に行う」ことの解説が乳児保育に関する部分で取り上げられているところである。これは、「保育内容総論」の学習目標4「子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する」という点にも繋がっている。特に乳児保育においては養護的側面が強く感じられるが、それが即ち「望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う」ことであり、教育的側面も同時に育てていく必要性であるという解説がされている。

さらに、全ての教科書で保育所保育指針を抜粋しながら解説していることから、「保育内容総論」学習目標1「保育所保育指針における『保育の目標』、『子どもの発達』、『保育の内容』を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する」という点も押さえることができる。

3-1-2. 乳児保育の現状と課題

乳児保育の理念と役割に分類される、共通する教科書の内容には、女性の社会進出、核家族化、少子化等保護者や子どもを取り巻く社会状況の変化に伴い、乳児保育が必要とされる時代を迎えている現状と、そのような社会の中でも、安心して子育てができるような環境整備に関する課題が取り上げられている。

教科書2では、現代の乳幼児の生活と課題として保育所の乳児クラスに入所する人数の増加に伴い、クラスの増設や追加雇用の問題、待機児童のほとんどが乳児であり受け入れの体制が整っていない現状を説明している。また、核家族や少子化が与える生活への影響を考えると、保育者を志す学生に投げかけている。教科書7では、教授内容で「保育の多様な展開」として位置付けている乳児保育・長時間の保育・特別な支援を必要とする子どもの保育・多文化共生の保育の4点を、これからの保育内容の課題として説明している。

3-1-3. 3歳未満児の発達と保育内容

3歳未満児の発達と保育内容については、ほとんどの教科書で取り上げられていた。内容は、ピアジェやエリクソンによる発達段階説を解説しているものや、保育所保育指針の中から発達の特性について書かれている部分を抜粋し、保育内容と合わせて解説しているものなど、その取り扱われ方は様々であった。また、8冊の教科書で具体的な保育場面の事例を示して説明をしており、教科書17では、5領域別に事例を示して保育内容の説明をしており、その内、表現を除いた4領域で乳児の事例を取り上げていた。

3-1-4. 乳児保育の実践

乳児保育の実践に分類される、共通する教科書の内容には、保育課程に基づく指導計画と評価について取り上げられている。特に、0歳児のデイリープログラムを明示しているものが多く、教科書5では、乳児の場合、食事や睡眠、排泄などの養護的側面が生活リズムをつくる柱となっているためであり、月齢が高くなるにつれて、指導計画との繋がりが強くなることを説明してい

る。また、教科書8にあるように、乳児保育は複数の保育者でクラスを担当することや、他職種と連携することも多いため細やかな個別の指導計画を作成することで一人一人の育ちを保障することが可能になるとしている。「保育内容総論」教授内容にある目標の3・5につながる内容が取り上げられていると考えられる。

3-1-5. 乳児保育における連携

乳児保育における連携について、「乳児保育」という章立ての中で取り上げている教科書は1冊のみであった。そこでは、乳児保育における保護者との連携協力について、子どもの生活は24時間連続したものであり、保育所においてその生活が分断されないためにも、保護者と保育者は、共に子どもを育てるパートナーとして、互いに協力し合うことが大切であるとしている。特別に章や節を設けて説明しているわけではないが、例えば教科書8では計画の必要性について、他職種との連携をより有効的なものとするためとしている。乳児保育では保健師や看護師等、他職種との連携が特に多く必要であることから、「保育内容総論」の教科書でも取り上げられる必要があると考える。

3-2. カリキュラム内での「保育内容総論」の位置付けにおける教授内容について

ここでは、各養成校における「保育内容総論」の開講時期について述べる。先述したように、保育内容の全体的な構造や総体を理解した上で、養護と教育にかかわる領域等について学ぶ必要があることから新設された科目が「保育内容総論」である。そのため、「保育内容総論」のふさわしい開講時期について各養成校での検討、調整が行われている。川俣ら（2015）は、養成校において保育内容総論を担当する教員10名にインタビュー調査を行い、保育内容総論にかかわる運営上の課題を明らかにし、解決策を検討した。インタビューに答えた教員が勤務する養成校の開講時期については、保育内容演習に先立ち保育内容総論を開講している養成校と、保育内容演習を学んだ後まとめとして保育内容総論を開講している養成校は半数ずつであった。ここで保育内容演習に先立ち総論を学ぶと回答した養成校においても、インタビューでは同学期に開講している他の専門科目における教授内容を把握した上で保育内容総論の授業を行なっていると語られている。

筆者が2017年4月1日現在で調べたところ、幼稚園教諭免許取得可能な東京都内の指定保育士養成施設63校の内、開講時期が確認できた45校において27校は在学期間の前半に保育内容総論を開講し、18校が後半に開講していることが分かった。

3-3. 保育の多様な展開に位置づく「乳児保育」について

保育の多様な展開について解説している教科書は1冊であった（教科書20）。

2016年、厚生労働省の発表では年齢別待機児童のうち0～2歳の低年齢児数は20,446人で、実に全体の86.8%を占めている。2015年4月にスタートした「子ども・子育て支援新制度」では、待機児童解消への対応が大きな特徴の一つとなっている。そこで、保育所、幼稚園、認定こども園に加え、小規模保育、家庭的保育・事業所内保育・居宅訪問型保育と多様な保育の場が用意され、それぞれで多様な保育が展開されている。乳児保育についてみれば、保育の基本は共有しな

がらも幼児とは異なる5領域では捉えきれない多様な保育であり、なおかつ乳児が保育される場も多様であると言える。そのため、新制度の下、多様な保育の展開に乳児保育が位置付けられることは必然的であり、保育内容の全体的な構造や総体を理解する科目である「保育内容総論」においても同様であると考えられる。

4. まとめと考察

本研究では、2017年の保育所保育指針改定を受け、現在の「保育内容総論」で扱われている教科書の中で「乳児保育」がどのように明示されているかについて整理して考察した。

まず、「保育内容総論」の教科書において「乳児保育」の内容がどのように取り扱われているのかという視点から、「3歳未満児の発達と保育内容」について教授することを重視する教科書が多いことが分かった。「保育内容総論」は保育を総合的に捉え、そこにある保育内容（領域）の要素を繋ぐ科目である。そこで、複数の教科書で取り上げられているように、実際の保育場面の事例やエピソードを活用し、そこにある各領域の要素を見付け出してそれらを繋ぎ合わせ、保育内容を理解するという教授方法は、保育の専門的な知識や技能を学び始めたばかりの学生にとって有効であると考えられる。

次に、カリキュラム内での「保育内容総論」の位置付けについては、中間まとめにおいて、「保育内容演習」に先立ち「保育内容総論」を受講することで、保育の概観を捉え、保育内容を多様な視点で総合的に学ぶことができると考えられている。調査の結果、現在「保育内容総論」を開講している保育者養成校においても、これに準じ、「保育内容総論」を在学期間の前半に開講している学校がやや多かった。しかし各養成校の抱える事情に応じて順序が逆になる場合もあり、中には、初めて保育を学ぶ学生にとって教科書で使用されている専門用語全てが初出であり、逐一解説が必要となるために、保育内容の全体や総体を理解するという目標の達成が困難であるとして、学習のまとめと位置づけ、開講時期を在学期間の後半に設定しているという報告もあった。その場合、準備学習が蓄積されていることから、理論から保育内容を考察することも可能になるだろう。例えば、ピアジェやエリクソンによる発達段階説を取り上げて想定される保育内容を明示している教科書を活用し、乳児期に必要な保育内容を考えるという教授の方向性も成り立つだろう。「保育内容総論」を養成課程全体の学習の導入とするか、学習のまとめとするかは、今後さらなる検討が必要である。

次に、「保育内容総論」において「乳児保育」が保育の多様な展開に位置づけられることについて述べる。年齢別待機児童数における低年齢児が占める割合の高さから、「子ども・子育て支援新制度」の下、乳児保育の量的な必要性と共に、質の向上が求められている。そのため、「保育内容総論」においても同様に、保育の多様な展開の一項目に「乳児保育」を位置付けて教授することが必要であると考えられる。

最後に、現在、保育所保育指針の改定に伴い、保育士養成課程の見直しが行われており、2019年度には新しい養成課程がスタートする。2017年12月4日付で公表された「保育士養成課程等の見直しについて（検討の整理）[報告書]」では、乳児（3歳未満児）の保育に関する内容を充実し、教育効果を高めるために、「乳児保育Ⅰ（講義）」を新設し、さらにこれまで通りの演

習科目を「乳児保育Ⅱ」とすること。併せて、現行の他の複数の教科目に含まれる低年齢児（3歳未満児）の保育内容に関する教授内容等について、相互の関連性を体系的に整理した上で、内容を整理充実することが示されている。同時に発表された「保育士養成課程の教科目の教授内容等について」の「保育内容総論」では、これまでの教授内容にあった保育の多様な展開から乳児保育のみが明示されなくなった。これに伴い、「保育内容演習」には新たに、乳児保育に関して〈目標〉2.子どもの発達を、乳児保育における「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児における「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5つの領域の視点から捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に学ぶ、と明示されている。先述したように「保育内容総論」という科目は、養護と教育にかかわる領域である「保育内容演習」に先立って、保育内容の全体的な構造や総体を理解するために設定されていることから、「乳児保育」に関する内容のみが外れてしまうことには疑問を感じる。新たな保育士養成課程における「保育内容総論」の中での「乳児保育」の取り扱いについて注視し、今後も様々な視点で検討する必要があるだろう。

参考文献

- 1) 川俣沙織・川俣美砂子・永渕美香子・圓入智仁・増田隆・那須信樹（2015）
「『保育内容総論』運営上の課題に関する研究」 中村学園大学・中村大学短期大学部研究紀要 第47号 pp.217-222
- 2) 庭野晃子（2011）
「『保育課程』の内容に関する一考察－保育所保育指針（2008）に対応した教科書分析Ⅰ」 静岡県立大学短期大学部研究紀要 第25号 pp.39-52